

場面提供① 『昼食の場面』

登場人物

- ① 利用者 A さん ～ 27 歳 女性 知的障害
就労支援施設を利用して 8 年目。施設の作業が好き。
缶コーヒーは超大好き。生活の場はグループホームで
入居して 1 年半。歩行することに不安を感じ、車いすを使用
している。
- ② 支援員 B ～ 22 歳 男性 入職半年
日頃から C さんの指導にはちょっと疑問を持っている。
- ③ 支援員 C ～ 30 歳 女性 入職 10 年目
新人や若い職員を指導する立場である。
- ④ 解説者 ～ シナリオの背景、場面を読み上げ、進行する。

エピソード

- ① グループホームに入居しながら、就労支援施設（就労継続 B 型）を利用する知的障害のある A さん。就労支援施設で昼食時、一人食事を前にして座っているが、食べる様子もなく、席に座ってうつむいている。楽しみにしていた週末の帰宅が中止になって落ち込んでいるのが原因のよう。他の利用者は、すでに昼食を済ませ、作業室で待っている。この状況で、入職して半年の支援員 B は、何とか A さんに自分で食事を摂ってもらうことを願って、隣りに座って話しかける。そこに通りかかった支援員 C は、今年入職 10 年目。横から優しく声をかけながら、「午後からの作業は出なくちゃダメ。ここの決まりだから」と仕事をするように促す。A さんはスッキリしない様子ではあるが作業室に向かう。C は B に「甘やかすだけでなく、やらなきゃいけないことはきちんと伝える。メリハリをつけて関わらないと。」と諭すように伝える。
- ② 翌日も同じように、A さんは食事をしないで一人食堂の席に座ったまま。B は今日も食べてもらうよう働きかけるが、やはり食べようとしなない。C が通りかかり、時間を気にしながら伺っている。他の利用者も準備万端ということもあり、B はだんだん焦ってくる。A さんは急に怒り出し「うるさい、黙れ！」と怒鳴りながら振り回した手が当たったため、B は「痛いー！おまえ、いいかげんにしろ！さっきから言いたいこと言いやがって。早く仕事をしろ！」と怒鳴りつけ、抵抗する両手を外し、車椅子を押す。

シナリオ・台本 1日目 エピソード①

昼食の時間、まだAさんは食堂の自分の席にいる。その横にBがいる。他の利用者は、すでに昼食を済ませ、作業室で待っている。

- B : Aさん、食事がんばって食べましょうよ。嫌いなメニューですか？
A :
B : 何か気になることがあるのですか？
A :わたし.....いつ帰れるの？
B : 家に帰れなくなったのは残念ですね。でも、食事と帰宅は別ですよ。健康に悪いですから食べましょう。
A : Bさん食べてよ.....わたしいらない。食べる気しない.....
B : そんなこと言わずに食べましょうよ。もうすぐ作業の時間ですよ。Aさんが元気ないと仕事困っちゃいますよ。みんなAさんがいると助かるって言ってますよ。
A : 仕事なんかどうでもいいよ.....ほんと、食欲ないから.....
B : 一口だけ食べてみましょうよ。残してもいいですから。少しだけでも。
A :いや.....食べたくない.....

このやりとりをヤレヤレといった表情でCが見ている。ついに見かねて2人に近づいてくる。

- C : どうしたの？また、つらいことでもあったんでしょ？
気分が乗らないんだったら食べなくても大丈夫。無理はしないで。
そんなことより、午後からの作業は出なくちゃダメ。納期がちかくて、みんな頑張っているの知っているでしょ。
Aさんだけやらないってわけにはいかないの。ここの決まりだから。
A : ...うん。
C : よし、そうしたら午後の作業は自分の好きな役割を選んでいいよ。
終わったらみんなでAさんの大好きなコーヒーを飲もうよ。大好きでしょ。
A : ...うん。...好き。...飲みたい。
C : じゃあ、がんばってみよう。仕事頑張ってコーヒー飲もう。

Cの声かけで、Aさんはスッキリしない様子ではあるが作業室に向かう。

- C : これでよし。
(Bさんに向かって諭すように) こうやってAさんに早く仕事をしてもらわないと。話を聞くことも大事だけど、職員なら日課をスムーズに進めることも大事。Aさんだけが仕事をしないのを許すと、他の利用者からも不満が出るし、みんなわがまま言いだしたら大変でしょ。特別扱いはできないの。
B : ...そうですよね。...わかります。
C : Aさんのような甘えた行動には、気持ちの切り替えをしてあげることが大事。だから私みたいにうまいことやらなきゃ。あとは日々の信頼関係かな。甘やかすだけでなく、やらなきゃいけないことはきちんと伝える。メリハリをつけて関わらないと。わかった？
B : ...はい、わかりました。次からはそのようにやってみます...

シナリオ・台本 2日目 エピソード②

昨日同様、昼食の時間、Aさんは一人、食堂で自分の席にいる。
その横にBがいる。

- B : Aさん、今日も食事して作業に出ましよう。気分が乗らないかもしれないけどルールなんだから、ちゃんと守らないと。ルール守れるよね？
- A : (顔を伏せている)
- B : だったら、今日もAさんの好きな役割を選んでもいいですよ
- A : (無言のままBをにらむ)
- B : わかった、終わったら今日もみんな缶コーヒーを飲みましようよ
- A : 家 帰りたい
- B : 家に帰れないのはがっかりしたと思うけど、仕事は仕事ですよ。

そのやりとりを、Cが時計をチラチラ気にしながら見ている。
他の利用者も準備万端、作業室で仕事が始まるのを待っている。

- C : もうすぐ時間です。Aさんが来たら始めますよ。
- B : ほらほら急いでください。早く食べて仕事に行かないと。このままだと給料もらえなくなって困るのはAさんなんですよ。
- A : 食べない！仕事いかない！
- B : Aさんのために言ってるんですよ。心配しているんだから。
- A : うそ！心配なんて、うそだ！
- B : だからー (語尾上がる)、うそ言ってるわけじゃないです！
- A : ここの職員はみんなうそつき！
- B : そんなこと言ったりするから、Aさんは家に帰れなくなったんじゃないですか！
- A : (き——と奇声) うるさい！黙れ！バカ！ (振り回した手がBに当たる)
- B : (机をたたきながら立ち上がり)
痛っいなー！おまえ、いいかげんにしろ！さっきから言いたいこと言いやがって。早く、仕事をしろ！ (と言いながら車椅子を押そうとする)
- A : (それを見たAさんは車椅子が動かないようにグッとおさえる)
- B : 抵抗したってダメだ！
(と言いながら、Aさんが抑えている両手を外し、車椅子を押す)

Aさんは抵抗するのをあきらめ、車椅子で作業室に押されていく。

- C : それでは午後の仕事を始めます。目標工賃達成を目指してがんばりましよう。
Cの音が響き、みんな無言で作業に取りかかる。

振り返り

1. 場面を通して感じたこと 感想の共有、意見交換
 - ・こんな事例、事業所にありますか。部分的なところでも。
 - ・以下のところにも視点を当てて、考えてください。
 - 日課（作業）を回さなくてはいけない 納期 取引先との関係
 - 集団生活 他の利用者との兼ね合い 特別扱いできない
 - 施設のルール 施設の事情、現実的な問題
2. この場面に対して、管理者として具体的にはどのように対応しますか。
 - ・虐待を受けた利用者に対して、他の利用者に対して
 - ・当該職員に対して、他の職員に対して
 - ・組織的な対応として

※管理者として、可能かどうか、その動きが取れるかどうかを含めて現実的な対応を考える。自分の事業所では…。